

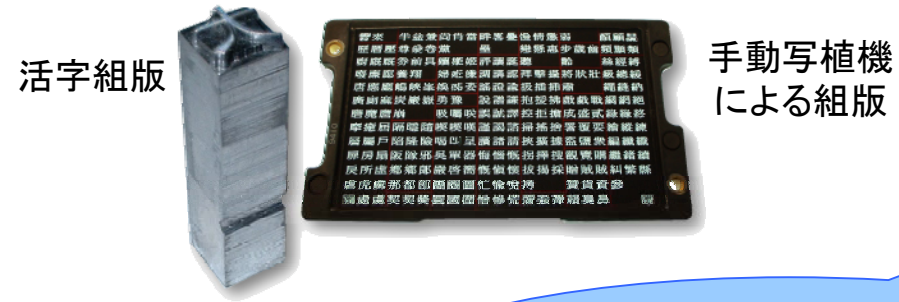
# プリプレスワークフローの変遷 並びに 電子出版に向けた取組

2010年4月27日  
大日本印刷 株式会社

# ～プリプレスワークフローの変遷～

# 過去の製造工程◆アナログ時代の文字組版

## 【活版組版と手動写植機の時代】



当時は、組版担当、割付担当、貼り込み担当など、作業単位に工程が分かれていました

完全な分業制

多くの技術者や職人、膨大な時間が必要

社会の要求

- ・大量生産
- ・短納期/低コスト
- ・品質精度の向上
- ・情報の付加価値

デジタル化

# 組版処理のコンピュータ化

## 電算写植機



組版専用プログラムを使って、組版イメージを確認しながら編集処理を行う。

## CTS (Computer Type Setting)



大型コンピュータを使い、作業内容に合わせた専用のプログラムを作成し、バッチ処理と呼ぶ方式で組版処理を行う。

### コンピュータを利用することで.....

- ・大量生産/短納期
- ・品質の安定
- ・他システムとの連動

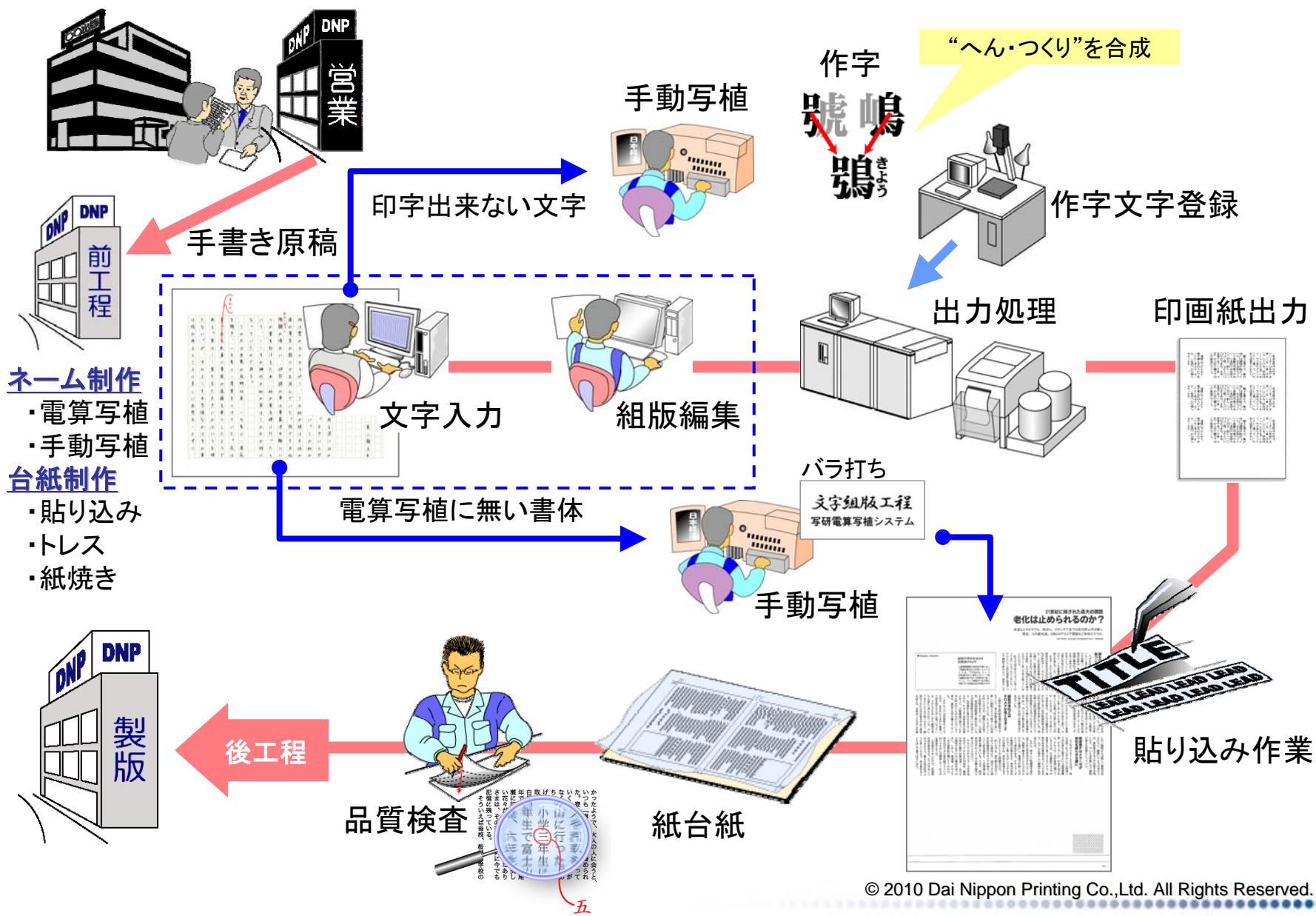
しかし!!  
専用システム

クライアント  
デザイナー  
編集者  
など

オープン化  
への期待



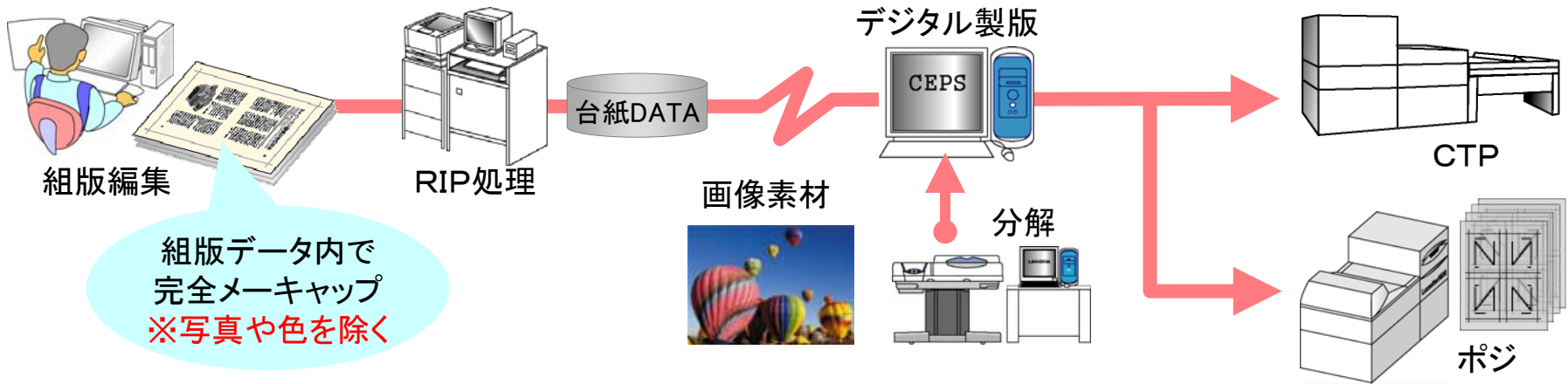
# 初期の電算写植システムの製造工程



# デジタル to デジタル (専用システムからオープンシステム)

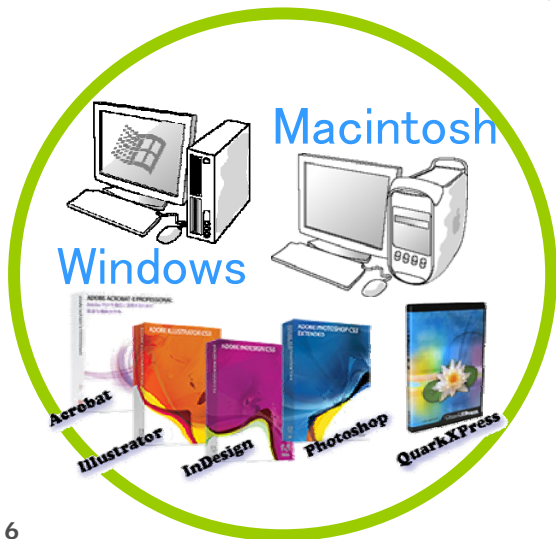
## ネーム制作 (文字組版)

## 製版処理 (CEPS)



## DTPの登場でフルデジタルワークフローへ

＜ネームから製版までの一環生産＞



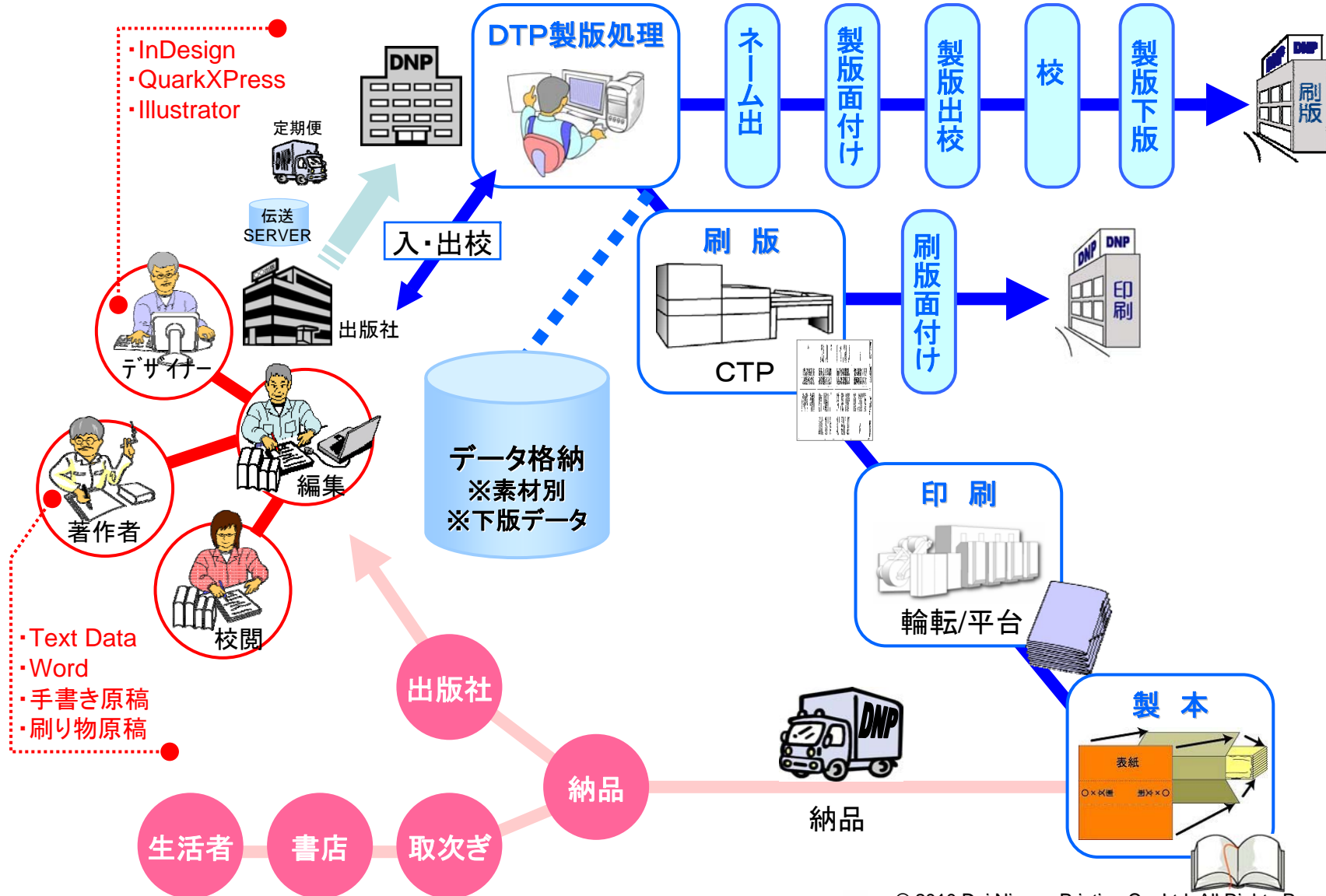
共通したプラットフォーム

共通したアプリケーション

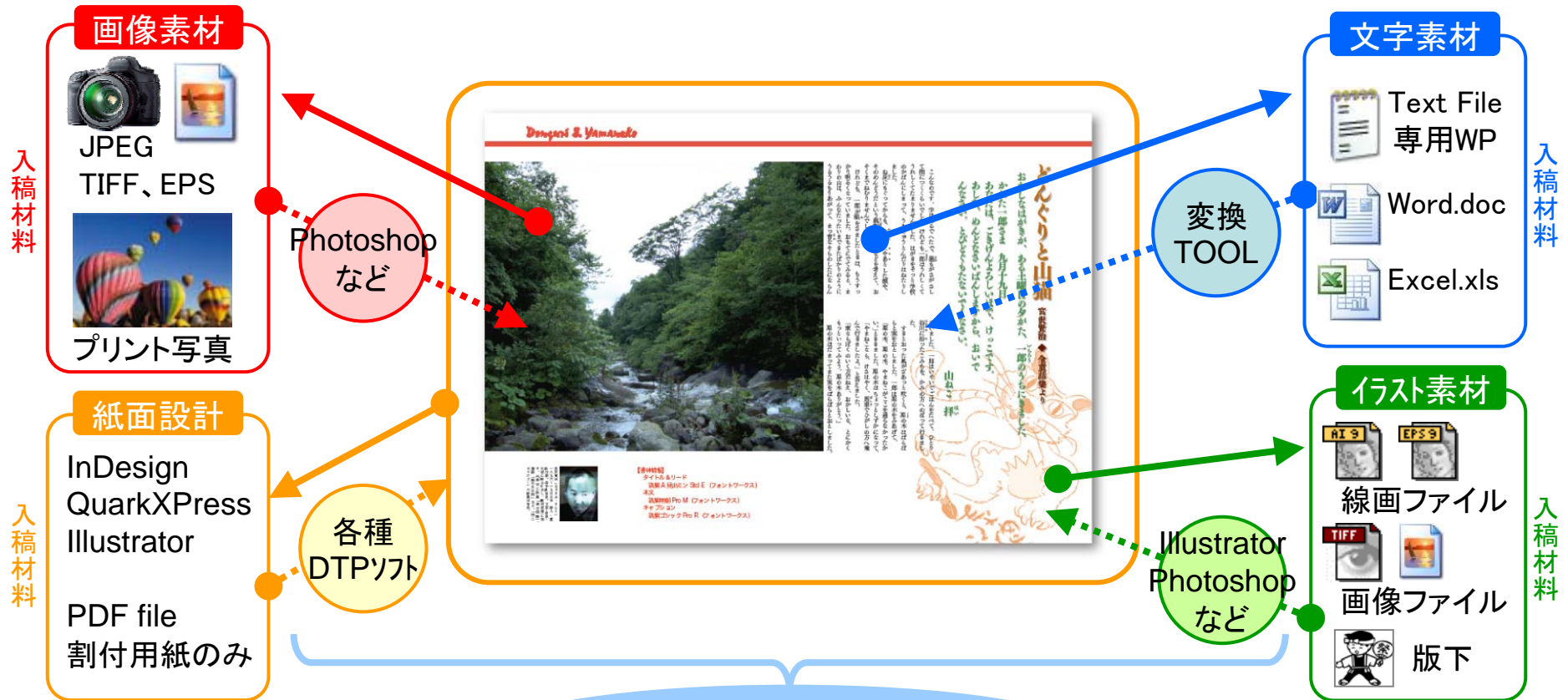
クライアント  
編集担当  
デザイナー  
などと、  
共有する環境  
を構築

コンテンツの共有化  
CMSの統一  
ワークフローの効率化  
情報の共有化  
マルチメディア展開

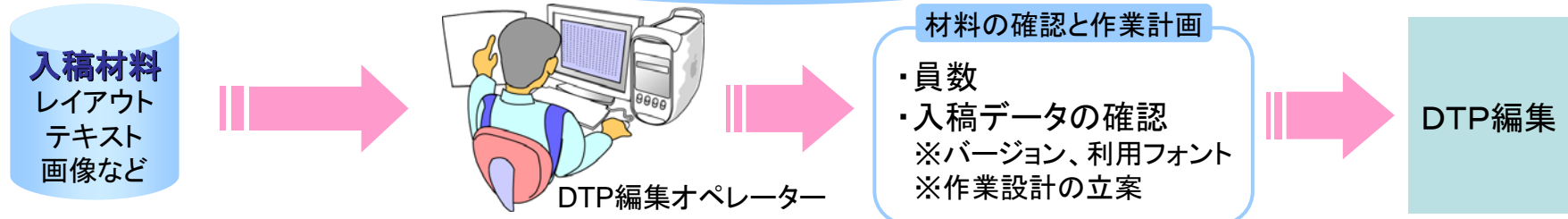
現在のフロー < 入稿→製版→刷版→印刷→製本 >



# 紙面構成とアプリケーションの関係



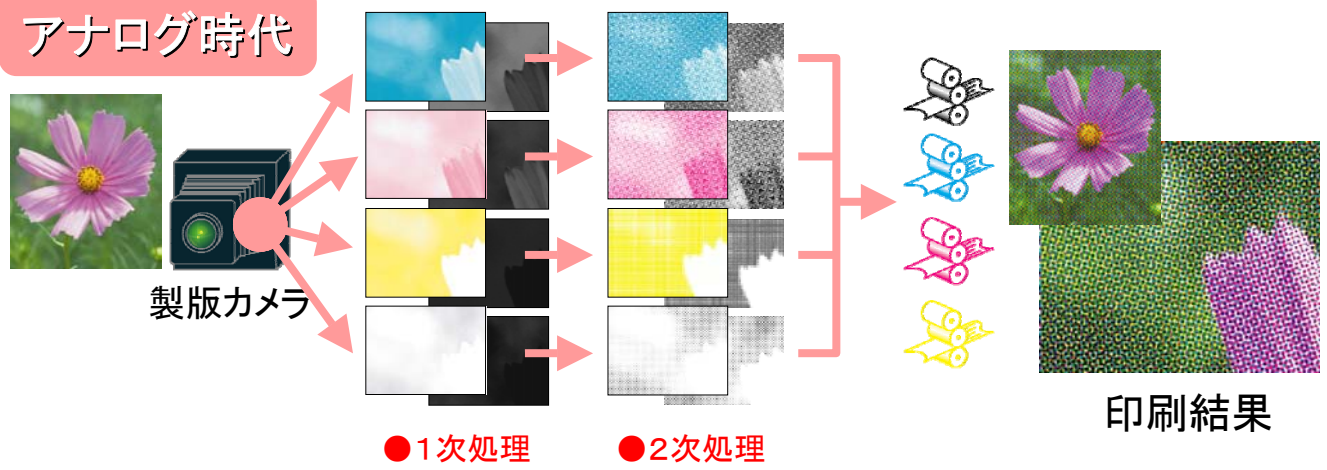
DTP編集オペレーターが目的に合わせて使い分け





# 現在の画像処理

## アナログ時代

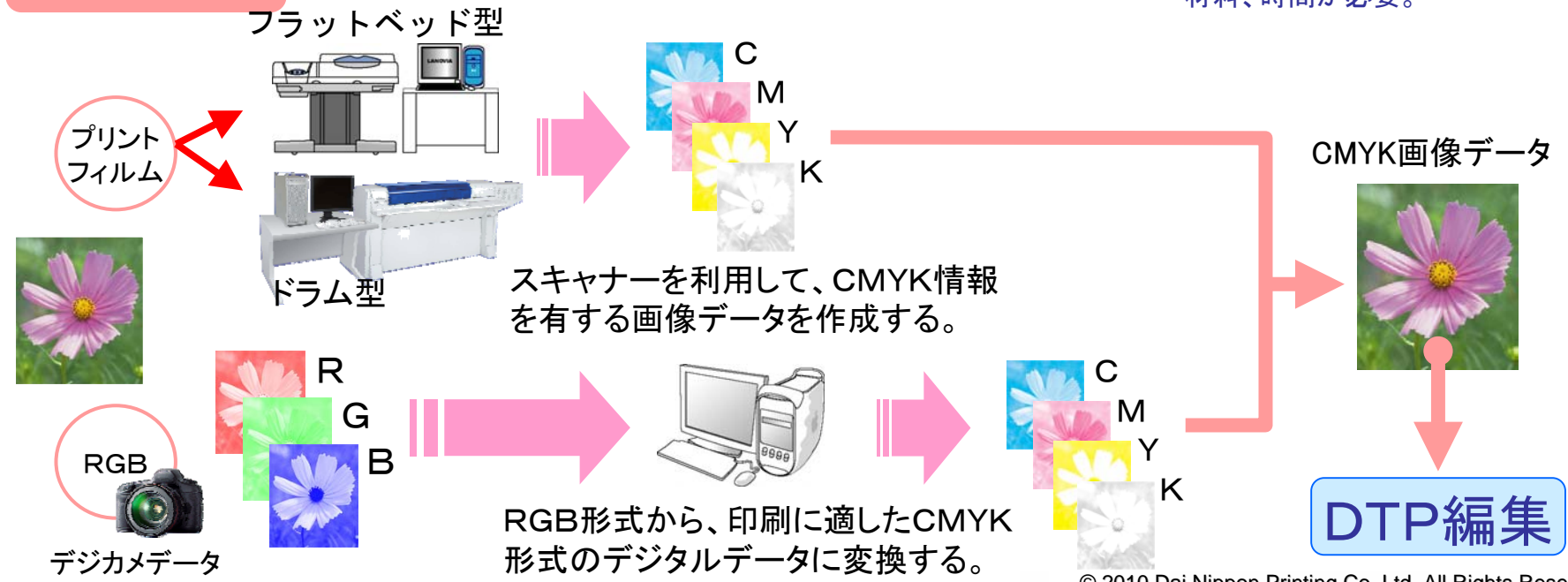


●1次処理  
原稿を製版カメラで撮影して、CMYK各色のネガフィルムを作成する。

●2次処理  
1次処理で作成したフィルムを使い、色の特性に合わせた網点を生成したポジフィルムを作成する。

1つの写真原稿から原版(製版フィルム)を作成する場合には、1次処理と2次処理を合わせて、8種類のフィルムを撮影する必要がある、大量処理を行なう場合には、膨大な人的資源と材料、時間が必要。

## 現在のフロー



スキャナーを利用して、CMYK情報を有する画像データを作成する。

RGB形式から、印刷に適したCMYK形式のデジタルデータに変換する。

DTP編集



## ～電子出版に向けた取組～

# 多様化するデジタル端末向けコンテンツ配信

携帯端末だけでなく、スマートフォン、デジタル放送対応テレビなど、端末が多様化していくなかで、雑誌やカタログなど誌面の記事コンテンツをそれぞれの端末に最適化して配信。



誌面のコンテンツを  
端末ごとに  
最適化して配信

- ① 誌面レイアウトをそのまま。
- ② 再構成して読みやすく。



携帯電話



スマートフォンなど



デジタル対応テレビ



# PC向け「デジタル雑誌」配信 誌面レイアウトのまま配信

- ・FLASHを活用することにより、印刷データを元に、冊子を超えた表現を実現
- ・誌面の試し読みやカタログの配信に活用



印刷物の解像度を活かし、  
300%の拡大でも高品位の画質を再生。  
プリント出力、サムネイル表示、ブックマーク、  
関連サイトへのリンク、自動ページめくりなど、  
本格的なWEBマガジンの機能を提供。



# 携帯向け「デジタル雑誌」配信 誌面レイアウトのまま配信

- ・携帯電話の画面サイズに適した雑誌の閲覧インターフェースを実現。
- ・雑誌の試し読みコンテンツとして、資料請求やECサイトの入り口として活用可能。



操作は携帯電話の各ボタンキーに対応。



サンプルをご覧いただけます



# 携帯向けに雑誌DTPデータからの再レイアウト①

- ・携帯画面向けに最適なレイアウトに再加工。
- ・誌面のDTPデータをXML変換して必要な素材を簡単に取り出し、携帯用コンテンツとして再編集が可能。



# 携帯向けに雑誌DTPデータからの再レイアウト②

The screenshot shows the 'MobileWebMagazine Editor Proto' software interface. The main window displays a magazine page layout with various images and text blocks. On the right side, there is a '表示リスト' (Display List) panel with several items, each having a width and height setting. Below the main window is a 'コンテンツ編集ツール' (Content Editing Tool) toolbar with various icons for editing text and images. Callout boxes point to specific features and tool options.

### ファイル保存

- ◆ 紙面読込
- ◆ 開く
- ◆ 別名で保存
- ◆ 上書き保存
- ◆ HTMLパブリッシュ
- ◆ 終了

### 表示リスト

- ◆ 罫線の設定
- ◆ 画像の設定
- ◆ 文字列の編集

### 紙面拡大・縮小

### 文字・画像の位置揃え

### ページ移動

### その他

- ◆ 絵文字追加
- ◆ 区切り線追加

### 全体色設定

- ◆ 背景色
- ◆ 文字色
- ◆ リンク色

### 文字設定

- ◆ 背景色
- ◆ 文字色
- ◆ 文字サイズ

### リスト操作

- ◆ リスト順番変更
- ◆ 削除



# デジタル対応TV向けに雑誌DTPデータからの再レイアウト

- ・DTPデータを元に、TV用レイアウトに再編集を行い、データ放送用BMLを出力。



変換ツール



- ・フォーマット変換
- ・素材抽出

番組内で  
誌面情報の配信



高品質の映像やオンデマンド配信など、家庭における情報媒体としての価値が今後ますます高まっていくことが予想されるデジタルテレビ。  
DTPデータを活用し、番組内の内容とコラボレーションした誌面コンテンツの配信や、番組内では十分伝えきれなかった情報を配信。



# スマートフォン向け「デジタル雑誌」配信 誌面レイアウトのまま配信

- ・DTPデータから、スマートフォンならではのユーザインターフェースを持ったビューワアプリへコンテンツ変換。





— 以上 —